

ここには映画と青春があった
でも私はなにをみつけたんだろう

止められるか、俺たちを



門脇麦 井浦新

山本浩司 岡部尚 大西信満 タモト清嵐 毎熊克哉 伊島空 外山将平 藤原季節 上川周作 中澤梓佐
満島真之介 渋谷清彦 音尾琢真 / 高岡蒼佑 / 高良健吾 / 寺島しのぶ / 奥田瑛二

監督:白石和彌 脚本:井上淳一 音楽:曾我部恵一

製作:尾崎宗子 プロデューサー:大日方教史 大友麻子 撮影:辻智彦 照明:大久保礼司 美術:津留啓亮 衣裳:宮本まさ江 ヘアメイク:泉宏幸 編集:加藤ひとみ
録音:浦田和治 音響効果:柴崎憲治 キャスティング:小林良二 助監督:井上亮太 制作担当:小川勝美 タイトル:赤松陽博 宣伝プロデューサー:福士織絵
製作:若松プロダクション スコーレ ハイクロスシネマトグラフィ 配給:スコーレ 宣伝:スコーレ 太秦 ©2018若松プロダクション 2018/日本/DCP/シネスコ/119分

www.tomeore.com



1969年、若松プロダクション——こんなにも命懸けで、こんなにもバカで愛おしい時間が、本物の映画を作っていた。

2012年10月17日の若松孝二監督逝去から6年。

若松プロダクション出身で、『凶悪』で第37回日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞、
『彼女がその名を知らない鳥たち』(17)、『孤狼の血』(18)など、いまや日本映画界を牽引する俊英・白石和彌監督が、
師匠・若松孝二が時代と共に駆け抜けていた若き日を描きます。
白石監督自ら「映画を武器に戦ってきた若松さんの声をもう一度聞きたい」と企画した本作は、
記念すべき若松プロダクション映画製作再始動第一弾となる。

“若松プロ”に飛び込んだおっぱ頭の女の子、吉積めぐみ役・門脇麦!! 驚愕の若松孝二役・井浦新!! 音楽&主題歌・曾我部恵一!!

スタッフ、キャスト共に、若松孝二に所縁のある面々が集結し、新生・若松プロの元、白石組が始動した!主演は若松プロ初参戦となる門脇麦。日本映画界に欠かせない存在として多くの作品に出演し、白石組には『サニー/32』(18)に続いての参加になる。白石監督がその佇まいから吉積めぐみ役を熱望し、「健康的な雰囲気と60年代に纏っていきそうなアンニュイな雰囲気が同居する不思議な魅力が、青春時代の誰しもが持ち得て感じる蹉跎を表現している」と、絶賛した演技で観る者を魅了する。

晩年の若松組常連で、映画、ドラマで唯一無二の存在感で観る者を惹きつける井浦新が若松孝二役を熟演。愛すべき“若ちゃん”として、新たな一面を見せた。

音楽は若松孝二とも交流があり、若松孝二の映画をこよなく愛する曾我部恵一が音楽を担当。主題歌「なんだっけ?」を書き下ろした。あの時代の空気と、主人公たちの情熱に寄り添ったメロディーに魅了される。



これは監督白石和彌が、師匠若松孝二と、
何者かになるうと夢みた、全ての人へ送る、
終わらない青春の1ページの記憶だ

めぐみ「あたし、まだ分からない。どんな映画作りたいか…」

オバケ「俺たちってさ、時間だけはたっぷりあるじゃないか。残酷なくらいに」

吉積めぐみ、21歳。1969年春、新宿のフーテン仲間のおバケに誘われて、“若松プロダクション”の扉をたたいた。当時、若者を熱狂させる映画を作りだしていた“若松プロダクション”。そこはピンク映画の旗手・若松孝二を中心とした新進気鋭の若者たちの巣窟であった。小難しい理屈を並べ立てる映画監督の足立正生、冗談ばかり言いつつも全てをこなす助監督のガイラ、飄々とした助監督で脚本家の沖島勲、カメラマン志望の高間賢治、インテリ評論家気取りの助監督・荒井晴彦など、映画に魅せられた何者かの卵たちが次々と集まってきた。撮影がある時もない時も事務所に集い、タバコを吸い、酒を飲み、ネタを探し、レコードを万引きし、街で女優をスカウトする。撮影がはじまれば、助監督はなんでもやる。

「映画を観るのと撮るのは、180度違う…」めぐみは、若松孝二という存在、なによりも映画作りに魅了されていく。

しかし万引きの天才で、めぐみに助監督の全てを覚えてくれたおバケも「エネルギーの貯金を使い果たした」と、若松プロを去っていった。めぐみ自身も何を表現したいのか、何者になりたいのか、何も見つけられない自分への焦りと、全てから取り残されてしまうような言いようのない不安に駆られていく。

「やがては、監督……若松孝二にキライを突き付けなさいと…」



10.13^土 全国順次公開

特別鑑賞券1,500円(税込)

絶賛発売中!! (当日一般1,800円のみ)

劇場窓口でお買い求め頂くと、
特製オリジナルポストカードプレゼント!
(一部劇場では取扱いがございません。)



新宿駅東口 伊勢丹メンズ館隣 B1F

洋:テアトルシネマグループ

テアトル新宿

03 (3352) 1846 ttcg.jp

